

麦類新認定品種の特性と栽培法

小麦「チクゴイズミ」、大麦「はるか二条」、裸麦「イチバンボシ」の特性

背景・目的

- 本県の麦作は、収穫期の降雨の影響を受けやすく、作柄が不安定で、作付面積は横ばいです。
- 一部の地域では契約栽培等で集団的な栽培を行っている事例もあり、早生で多収、良質の品種が求められています。
- そこで、近隣県で普及し実需ニーズが高い品種について、本県での適応性と栽培法を検討しました。

成果の内容

- 小麦「チクゴイズミ」は「ニシカゼコムギ」に比べ、成熟期は同等、多収で、品質が優れます。
- 大麦「はるか二条」は「ニシノホシ」に比べ、成熟期は2日早く、多収で、品質は同等です。
- 裸麦「イチバンボシ」は「宮崎裸」に比べ、成熟期は4日早く、倒伏しにくく、多収で、品質が優れます。
- 小麦「チクゴイズミ」は、分けつ肥として追肥一発型肥料を施用することにより、収量、品質を落とさず穂肥を省略できます(データ略)。
- 大麦「はるか二条」は、分けつ肥、穂肥の施用により収量及びタンパク質含有率が向上します。

表 麦奨励品種調査結果概要

品種名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	子実重 (kg/a)	標準比	容積重 (g/L)	千粒重 (g)	品質
チクゴイズミ	3/22	5/15	86	9.1	377	0.9	49.1	108	788	41.7	3.6
ニシカゼコムギ	3/24	5/15	87	8.0	399	0.4	45.3	100	795	39.1	4.0
はるか二条	3/11	4/30	83	6.4	684	0.8	54.2	110	689	46.7	4.4
ニシノホシ	3/15	5/2	89	6.9	643	0.9	49.4	100	648	44.2	4.1
イチバンボシ	3/19	5/5	85	4.9	425	2.8	37.2	138	780	32.1	4.0
宮崎裸	3/24	5/9	104	6.2	411	4.9	27.0	100	758	29.5	5.2

注) 2011～2018年の奨励品種決定調査本試験(2011年の「チクゴイズミ」、「はるか二条」は予備試験
品質 1:1等上～6:2等下、7:規格外、の7段階評価

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 3品種とも早生で多収であることから、本県の気象条件や経営形態に適しています。
- 実需ニーズに基づく契約栽培事例等において、収益の向上に資することが期待されます。
- 普及対象地域・面積 東臼杵地域等、180ha

留意点

- 実際の追肥はほ場条件、その年の気象条件に応じて行います。

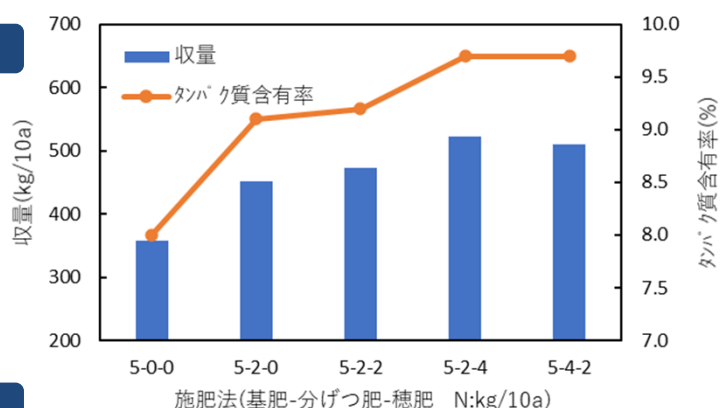


図 施肥法と収量、タンパク質含有率との関係(はるか二条)